

計画の趣旨

本市では、豊かな自然環境と農林水産物を保全していくことに加え、商工業、観光業など他分野と横断的に連携した取り組みを推進することで、本市の農林水産業を魅力ある「稼げる産業」に変えていくことが求められています。最新技術の活用やブランディングの推進など、次世代につなげる農林水産業の推進に向け、農商工が横断的に連携して取り組むための行動指針として、本計画を策定します。

計画の位置づけ

本市の市政運営の指針となる「加賀市総合計画」を踏まえ、本市の主要産業のひとつである**農林水産分野における個別計画**と位置づけ、具体的な取り組みの指針を示します。

また、「加賀市産業振興行動計画」「加賀市観光戦略プラン」「加賀市歴史文化基本構想」「加賀市食育推進計画」等の関連計画と整合性をとりながら、取り組みを推進します。

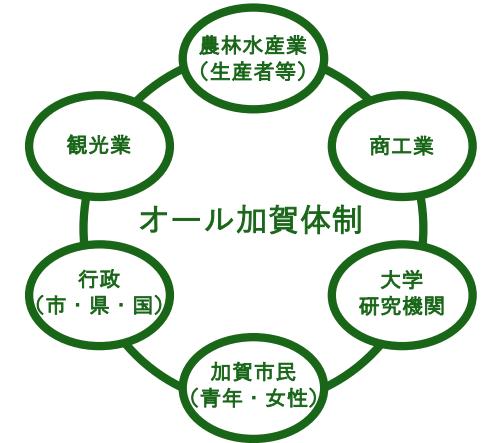
【上位計画】
◆加賀市総合計画

加賀市農林水産業振興行動計画
(令和2(2020)年度～令和6(2024)年度)

【関連計画】
◆加賀市産業振興行動計画
◆加賀市観光戦略プラン
◆加賀市歴史文化基本構想
◆加賀市食育推進計画
(かがし健康応援プラン21(第二次)中間評価)

計画の推進体制

本計画に沿って農林水産業の振興を推進するためには、農林水産業の従事者だけではなく、宿泊業、飲食業、伝統工芸など**多様なプレイヤーが参画し、協働で取り組みを進めていくことが重要です**。各分野のプレイヤーが連携し、多様な視点を取り入れたオール加賀体制で農林水産業の好循環を促し地域の活性化を図ります。



農林水産業 振興行動計画



計画の推進期間

行動計画の計画期間は**令和2(2020)年度を初年度とした5年間**とし、**3年目に中間見直し**を行います。また、毎年度農林水産業振興行動協議会を開催して計画の進捗状況などを検証し、計画を推進していきます。

市長あいさつ

本市は、森と水に恵まれた地域であり農林水産業も盛んな地域ではありますが、従事者の高齢化や担い手不足は大きな課題となっており、稼げる産業になることが求められています。こうしたことから、最新の先端技術の活用やブランディングの推進など、農林水産業と商工学官が横断的に連携して取り組む行動指針として本計画を策定しました。

今後、計画に掲げた施策の推進に全力を挙げて取り組み、次世代に繋がる魅力ある農林水産業を目指してまいります。

最後に、本計画の策定にあたり貴重なご意見をいただいた、ご専門の皆様並びに産業界や事業者、市民の皆様から感謝申し上げます。



令和2年4月1日
加賀市長 宮元 陸

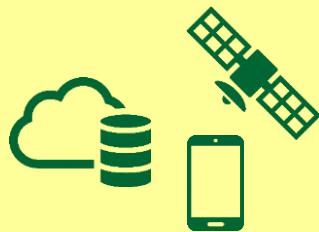
理念の実現に向けた2つの最重点施策

最重点施策 1 スマート機器等を活用したデジタル化の推進 (方針1-①)

IoT技術により取得したデータの活用やスマート機器の導入など最先端技術の活用を積極的に推進することで、生産性の向上を図ります。

主な施策

- ①IoT技術を活用した機器の導入による実証と実装を推進
- ②自立型農機等の導入の実証と実装を推進
- ③ドローン活用による生産性向上の推進



最重点施策 2 高付加価値農産品等の生産推進と海外展開 (方針3-③)

有機農法などこだわりのある生産・収穫方法を推進し、人や環境にやさしい農林水産物の生産にも取り組むことで、本市の豊かな農林水産資源を保全しつつ、海外への販路拡大を目指します。

主な施策

- ①こだわりのある農産品等生産者への支援
- ②グローバルGAPなど農産品等の国際認証取得の推進
- ③有機農法の推進
- ④農産品等の海外輸出の検討・調査



基本理念と方針

加賀市らしい農林水産業の未来を目指して

生産性の向上や将来を担う人材の育成により、未来へ持続可能な農林水産業を推進します。また、本市の自然環境や歴史・文化を活用したブランドイメージを構築することで農林水産物の高付加価値化を図り、本市の農林水産業を「稼げる産業」へと発展させ、次世代につなげます。

方針1 生産性の向上

<1> スマート機器等を活用したデジタル化の推進 (最重点・再掲)

<2> 栽培や生産技術の見える化

- ①IoT技術を活用した栽培技術の継承支援
- ②台帳の電子化による一元管理の推進
- ③スマート機器を活用した林業技術の継承

<3> 作業環境の整備

- ①共同利用基幹施設の整備支援
- ②雇用環境の改善や事業合理化の促進
- ③意欲と能力のある林業経営体への支援
- ④漁業関連施設の整備

方針2 次世代を担う人材の育成と安定経営の強化

<1> 新たな担い手の育成

- ①新規就農者支援
- ②技能取得・営農計画策定支援
- ③坂網猟の後継者育成

<2> 経営等支援事業の充実

- ①強い農業・担い手づくり総合支援事業等の推進
- ②環境保全型農業直接支援対策事業費
- ③森林環境整備事業の推進
- ④森林環境譲与税の活用
- ⑤内水面稚魚放流事業
- ⑥浜の活力再生プランの推進

<3> 農地・林地集積と法人化の推進

- ①農地利用最適化活動の推進
- ②集落営農組織設立の推進
- ③森林整備の一元化
- ④小規模林業の支援



農林水産業の現況と課題

農業

- ・基幹的農業従事者数は828人（平成27年）で従業者数の減少や高齢化が進行
- ・農地面積の9割をコメが占めるほか、ブロッコリーとかぼちゃを戦略品目とする
- ・地産地消を意識し、有機農法などこだわりのある農産物を生産する事業者もみられるが、市民や旅行者の認知・消費拡大に至っていない

林業

- ・林業就業者数は55人（平成27年）で高齢化による人材不足が進行
- ・森林面積は21,179ヘクタール（平成28年度）で32%が人工林、60%が天然林
- ・森林所有者の高齢化等による森林資源の現状確認の困難化

水産業

- ・漁業従業者数は86人（平成27年）で従業者数の減少と高齢化による人材不足が進行
- ・漁獲量は1,390t（平成28年）でカニ、エビ、かれい、タイ類等を中心に水揚げしているが、天候不順等の影響により水揚げ量が減少

加工・販売

- ・ブランド化された農産品等がまだまだ少なく、所得向上のためこだわりのある生産・収穫方法を推進することが必要
- ・農産物のグローバルGAP等の認証取得による販路拡大が必要
- ・食材の安定的な供給と量の確保が必要

方針3 ブランド戦略の強化

<1> 6次産業化・地産地消の推進

- ①農商工連携の推進
- ②食農・食育教育の推進
- ③県外企業へのPR推進

<2> 加賀市ブランドの確立

- ①加賀市らしい商品開発の推進
- ②マーケットインを見据えた商品開発の推進
- ③加賀市らしい器の開発推進

<3> 高付加価値農産品等の生産推進と海外展開 (最重点・再掲)

<4> マーケット拡大化体制の構築

- ①効果的なPR方法の構築
- ②効果的な販売体制の構築
- ③ブランド管理組織の構築



課題

(1) 生産性の向上

- ①最新技術を活用した生産基盤の構築
- ②豊かな農林水産資源の継続的な保全

(3) ブランド戦略の強化

- ①歴史・文化資源を活用した加賀市らしい農林水産資源の価値づけ
- ②消費者ニーズを意識した商品展開
- ③地産地消の環境づくり
- ④世界を意識した販路拡大戦略の推進

(2) 次世代を担う人材の育成と安定経営の強化

- ①次世代の担い手育成
- ②生産側と流通側の連携

